

# 東京砂利鉄道



「東京砂利鉄道路線平面図」

（『第1種 文書類纂・土木・第14類・軌道鉄道・第3巻〈（内務部土木課）〉』）

多摩川の砂利は建設資材や鉄道のバラスト用として重宝され、多摩川の砂利を都心へと運ぶための路線が計画されるようになります。

東京砂利鉄道は明治42年（1909）1月に北多摩郡多磨村下河原地内（現府中市）から府中町を通過して国分寺駅へとつなぐ路線を申請しました。

鉄道駅がなかった府中町の政財界の要望もあり、一般旅客も見込んでの申請でしたが、専用鉄道として認可され、明治43年に国分寺—下河原が開通しました。

現在は廃線となっています。